

ところ会 5月行事案内

岩殿観音と平和資料館を訪ねる

岩殿観音は坂東札所で、古来より信仰を集めているところです。また、近くの「埼玉県平和資料館」で戦争の悲惨さと平和の尊さを伝える展示を見ましょう。当初8kmを歩く予定にしていたましたが、5kmに短縮しました。

記

■日 時：平成29年5月11日（金）

9:15 本川越駅改札の外に集合して下さい。

■見学場所及び時間：コース全長 約5km

所沢駅(8:52)・・・本川越駅 9:15⇒川越市駅 9:30

⇒高坂駅 9:47⇒足利基氏屋敷跡⇒弁天沼（休憩）⇒岩殿観音

⇒昼食⇒物見山⇒埼玉県平和資料館

⇒大東文化大バス停……高坂駅⇒所沢着（予定時間 15:30頃）

■昼食：日の出屋 11:40～12:40 予定 ☎0493-34-4464

食事は予約しますので、参加の回答の時に申し込んで下さい

■散策先簡単ガイド

＜足利基氏屋敷跡＞

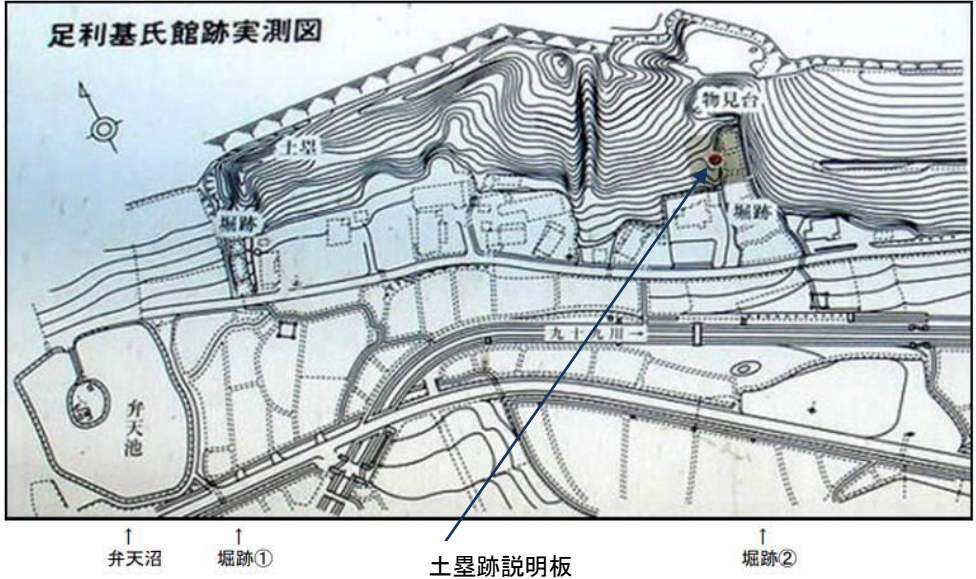
足利基氏は、鎌倉公方と呼ばれ、南北朝時代に活躍した武将で、足利尊氏の次男として歴応三年（1340）に生まれました。

館の跡は、高坂台地西側の斜地に立地し、九十九川（つくもがわ）に向かって下り、南側が大きく開口しています。北と東西に土塁跡、東西に堀跡が残っています。館は堀を含めると東西180m、南北80m前後の規模とみられ、北面中央部の東寄りが山側に突出した形となっています。このすぐ東側で北と東の土塁の交点には、物見台とみられる高まりがつくられています。東と西側の土塁の外には、現在、水田となった水堀が往時の面影を伝えています。南面は後世に大きく変化していますが、九十九川と谷筋の湿地が外敵を防ぐ役割を果たしていたとみられます。

『新編武蔵風土記稿』にも記載されていますが、この館跡は足利基氏が貞治二・正平一八年（1363）に反乱をおこした、芳賀高貞（宇都宮氏の一

族で下野の豪族) と、いわゆる「岩殿山合戦」を行った時に布陣した場所で、本陣がおかれた可能性が高いと思われます。

しかし、基氏は長期の滞在はせずに、すぐに下野国に陣を進めています。そのためこの館は合戦の時に基氏が築いたものではなく、地元豪族が造った館を陣地として利用したものと思われる。



<弁天沼（鳴かすの池）>

昔、坂上田村麻呂が岩殿山に住む悪竜を退治し、首を埋めたところにこの弁天沼ができたといわれ、カエルがすみつかないところから「鳴かすの池」と呼ばれたと言い伝えられています。

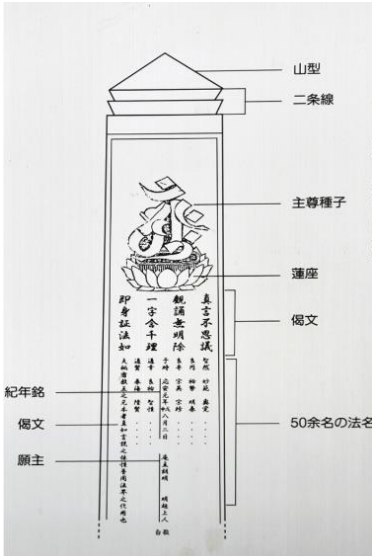
<阿弥陀堂の板石塔婆>

鳴かすの池の向かいの墓地の中腹に建っているひときわ大きな板碑が「阿弥陀堂の板石塔婆」です。「鳴かすの池」ほとりに建つ岩殿会館は、かつて阿弥陀堂があった場所と言われており、このことから「阿弥陀堂の板石塔婆」と呼ばれています。

板石塔婆（以下板碑）の多くは、亡くなった人の死後の世界での幸福や安らかに死を迎えられることを願って建てられたものです。鎌倉時代中頃

から南北朝時代を経て江戸時代の初めの頃まで、全国各地で盛んに建てられています。この時代に多くの板碑が建てられた理由の一つに、貴族社会から武士の時代となり、世の中の争乱による苦しみや恐れにたいして、仏に心の救いをもとめたためと考えられています。板碑に刻まれた銘文は、文字資料の少ない時代の様子を知る手掛りとなるもので、貴重な文化財です。

この板碑は、応安元年（1368年）明超上人が中心となって、同門の五十余名の僧侶と共に、真言密教の布教を願って建てられた板碑で、このように多くの人によって建てられた板碑を結衆板碑（けちじゅういたび）といいます。高さ260cmを測り、市内では二番目の大きさの板碑です。蓮座の上には胎蔵界（たいざうかい）大日如来の種子（しゅじ）、下には五字一句、四区からなる偈文（げもん）が刻まれています。中央には紀年銘と願主、その右には三列、左には二列の僧侶の名が十段まで確認できます。左端にも偈文が刻まれています。



この大きな板碑から、当時の岩殿山の繁栄と信仰の高まりを感じることのできる板碑といえます。

<岩殿観音>

正法寺（しょうぼうじ）は、真言宗智山派の寺院で、山号は巖殿山。坂東三十三観音の10番札所で、一般的には「岩殿観音」と呼ばれ親しまれています。寺伝によれば養老2年



（718）に、本尊千手観音像として開山し、鎌倉時代初期に源頼朝の命で比企能員が復興しました。頼朝の妻北条政子の守り本尊と伝わっており、戦国時代には武田勢の松山城攻めの時の本陣が置かれたということです。寺領25石の朱印地を徳川家康から与えられています。

岩殿観音は古来より信仰を集め、門前市をなしました。惣門橋からの岩殿観音の参道は緩い坂道（凡そ長さ 600 m、標高差 60m）になっていて、両側には約 50 戸の宿坊や、宿屋、商店等が並び門前町を形成していたと言います。今は、往時の面影はないものの各戸では当時の屋号を書いた木札を吊るしています。



また、東松山市の天然記念物に指定されている大イチョウも見事です。

<物見山>

標高 135m の物見山は古くから比企丘陵を代表する展望の地として知られており、四季を通じて比企丘陵の自然を楽しむことのできる公園です。物見山には、約 4 万本のツツジが、春には桜とともに美しい花を楽しむことができます。



<埼玉県平和資料館>

第二次世界大戦が終結してから 70 年以上が経過し、人々の記憶の中から大戦の惨禍が忘れ去られようとしています。

当館は、風化しつつある戦争の体験を次の世代に引き継ぎ、県民に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えることにより、平和に対する意識の高揚を図り、平和な社会の発展に寄与することを目的に、平成 5 年に開館しました。



常設展示室は、1920～1940 年代の昭和初期から終戦までの期間を中心に、県民と戦争との関わりを歴史的な移り変わりのなかで理解できるように展示しています。

帰路：大東文化大学前バス停から高坂駅までバスで戻ります。